

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6年 3月 25日

事業所名 児童デイサービス芳泉 大治

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	40%	60%		基準の倍の広さ。スペースは基準を満たしている。
	2 職員の配置数は適切である	20%	80%		職員配置は基準を満たしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		全面バリアフリーである。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	60%	40%		全体ミーティングに全スタッフが参加。参加できない時は個別で伝える。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%		アンケート調査をもとに改善案会議を行っている。課題の残っているところがあるため来年度には具体的にしていこう。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%		ホームページに公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%		第三者による外部評価は行っていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		臨床による内部研修、地域研修に積極的に参加するよう通達し調整している。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		年1回のフェイスシートとアセスメントを更新。半年毎に保護者面談を実施。コロナ感染防止の為オンラインによる聞き取りした時期もあった。計画書作成会議を開催して計画書を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%		立案は担当が考え、チームで改善案を出しながら構成している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		曜日固定利用児の子どもが同じ活動に偏らないよう工夫している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		休日、長期休暇は、午前と午後に分けたり、余暇を充実し、平日は学校の様子聞き取りながら課題を調整している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		集団活動と基本的な生活習慣や余暇等個別活動を組み合わせ、計画書を作成している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%		朝礼でその日に行われる支援内容と役割分担の確認をしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		先に帰るスタッフから申し送りを受け、最後まで残るスタッフが本日の振り返りを申し送りノートに記入している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%		毎日朝礼で前日の様子を振り返り、支援の改善を話し合っている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		利用児や環境に変化があった場合は、その都度スタッフ間で話し合いを行い、必要に応じて相談支援専門員と連携をとりながら見直しの判断をしている。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	60%	40%		積極的な地域との香りができていない。職員間で具体的にしていこう。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%		基本的に子どもの状態を最もよく把握している担当スタッフがサービス担当者会議に参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		保護者を通じ、年間行事予定や毎月のお便りの控えを頂戴したり、下校時間を利用予約表へ記入し把握している。送迎時の対応についても、変更があればその都度調整している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	80%	20%		医療的ケア児の受け入れはしていない。アレルギーや服薬等が必要な子どもに関しては、事前に保護者との情報を共有している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%		相談員を通じ担当者会議を行い情報共有をしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	80%		今年度は障害福祉サービス事業所への移行する利用児はいなかった。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	40%	60%		今年度支援センターが開所した地域があった。来年度は連携を強化していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会を設けられていない。来年度検討して実施していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	80%	20%		毎回参加し、議事録を後日印刷しスタッフに回覧し共有している。市が主催する研修会等へは積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		送迎時に事業所や自宅でのこどもの様子を共有し連絡帳や電話等で発達状況や課題についてお互いが理解し合うように努めている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%		月1回臨床心理士の保護者相談会も実施しており、希望者には無料参加でペアレント・トレーニングの支援を行っている。支援者のペアレント・トレーニングの研修を受けていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%		利用開始前に事業所にてご説明をさせて頂いている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		日々の子育ての悩みはその日うちに返答するように努めている。随時臨床心理士資格を持つスタッフによる職員へのコンサルテーションを通じ助言をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%		父母会は行っていない。コロナで中止していた保護者会の開催をした。施設で行う秋祭りや、施設外行事で保護者交流は企画している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		その日のうちに苦情の内容や原因及び対策を話し合い、施設が謝罪と説明を伺っている。相談支援専門員にも連絡し、再発防止に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		毎月「芳泉だより」「月間スケジュール」を保護者へ配布している。活動状況についてはブログやインスタグラムで発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		個人情報同意書でサインをしていただくと共にブログやお便り等に写真を掲載してもよいかの同意書も頂戴している。スタッフ間での研修も実施した。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		障害の特性に合わせて方法で言語、イラスト、画像、動画等ツールを工夫している。保護者へには繰り返しかつ具体的な説明等の配慮をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		地域柄ご招待できない現状がある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		緊急時対応については、保護者様と避難場所や引き渡し方法についてプリントをお渡しし共有している。スタッフ間でファイルの場所を周知している。各種のマニュアルを作成し研修を行っている。保護者様にも説明できる体制を整えている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		月に1回、火災・地震・水害等の避難訓練を実施し、避難場所への道のりを確認している。水消火気を使い消火訓練を行う等工夫をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		委員会を立ち上げ、年に1度虐待に関する研修を行い、チェックリストでスタッフ全員に虐待を行っていないかチェックをし、事前防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		該当なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		アセスメントの際、アレルギーの有無を確認し、スタッフ間で共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハット報告書ファイルを作成し、事業所内で共有している。